



航空機による海氷観測

航空機による上空からの目視観測により、海氷の分布範囲のほか、海氷の種類や海氷の密接度（氷の密集度合い）をスケッチするとともに、写真撮影を行っています。小規模な海氷や薄い海氷を確認することが可能で、人工衛星の画像解析のための一次情報にも活用されています。



観測員による観測状況



右図①地点の海氷



右図④地点の海氷

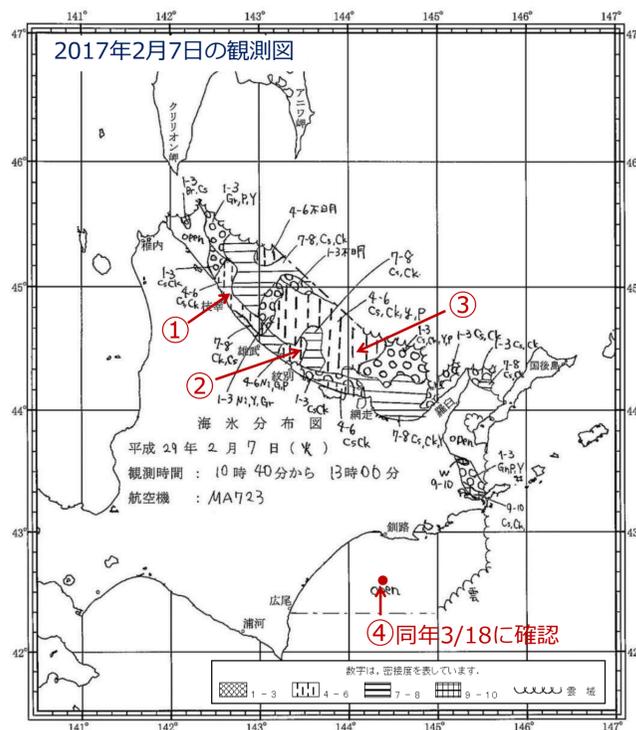


右図②地点の海氷



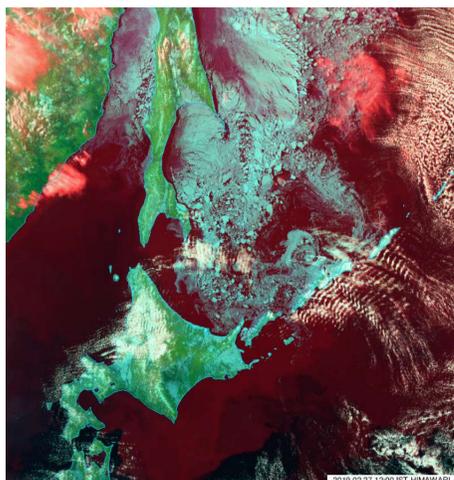
右図③地点の海氷

↑
2017年3月18日、
釧路沖で観測され
た海氷

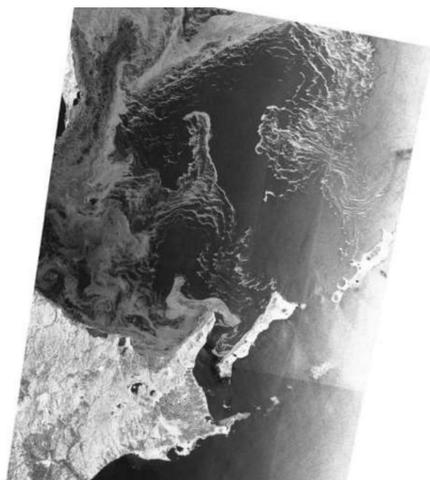


人工衛星による観測画像の活用

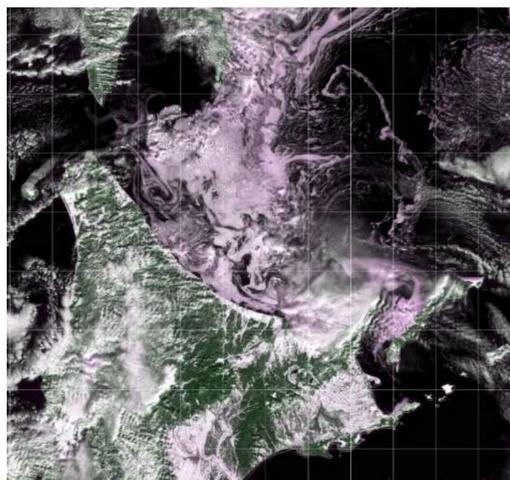
航空機による海氷観測の頻度は多くはありません。そのため、各種人工衛星が観測する画像などを収集して海氷情報を提供しています。人工衛星は一度に広範囲の海面の様子を把握することが可能で大変有用です。



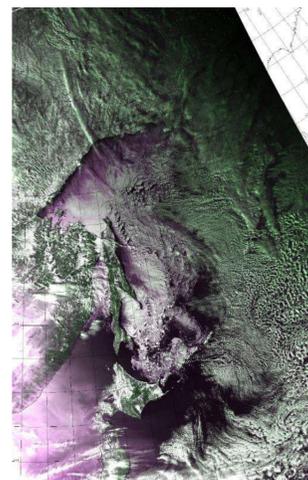
提供：気象庁
人工衛星ひまわりで観測



提供：JAXA
人工衛星だいち2号の
合成開口レーダーで観測



提供：東海大学
NASAの人工衛星Terraで観測



提供：北見工業大学
NOAAの人工衛星の
AVHRRで観測